

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

県政を
もっと
身近に



<http://www.araikinuyo.jp>

国の経済対策に伴う補正予算案も 神奈川県議会で107議案を可決

神奈川県議会の2015年第1回定例会は3月13日の本会議で県から提案された2016年度当初予算案、2015年度の補正予算案2つなど107議案を可決して閉会しました。毎年、翌年度の当初予算を決めたり、当該年度の補正予算を決める年初の定例会は特に注目を集めますが、今年は通常の補正予算案のほか、「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」として2月に成立した国の平成26年度補正予算に対応する形で組まれた補正予算(その2)案も提案され、可決されたことが特色となっています。(その2)の補正予算案は総額70億2300万円で、このうち国の支出金は52億5400万円、残りが県の支出金となっています。

予算のなかで最も多いのが国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地域消費喚起・生活支援型)」を活用するもので、36億4000万円が計上されています。内容は国が推奨したメニューに沿って決められ、「神奈川ならではの魅力ある旅行商品や、ふるさと旅行券・お楽しみクーポンを割引価格で販売する」「オンラインショッピングサイトを開設し、カタログを整えるなかで県産品の割引価格販売を行う」となっています。県ではこれらに関するインターネットサイトを立ち上げるとともに、6月ごろには県民に具体的な内容を示せるようにしたいとしています。また県独自のものとしては「未病市場創出促進事業」があります。これは県独自に取り組んでいる未病事業に関係したもので、割引販売した関連商品やサービスについて消費者参加型のモニター調査などを実施することで、未病等プロジェクトの推進を図ろうというものです。

また神奈川の人口減少地区となっている県西と三浦半島の2地区の活性化策にも予算が付けられ、県西では「未病のための事業」に2億448万円、三浦半島では「観光の核づくり、マリンスポーツを柱にした地域活性化のモデル事業」に1億4600万円が充てられています。



さらに少子化対策の中の結婚支援事業費として1900万円が盛り込まれています。男女の出会いのためのバスツアー、県や市町村等の結婚支援情報発信サイトの開設・運営などで、遅ればせながら神奈川でも結婚支援の取り組みが始まることとなります。



コレが言いたい!

地方創生は「新たな価値を生み出し地域を新しく作り変える」ものです。今回の補正予算の事業については、地域の魅力ある資源・資産を知り尽くしている地域の皆さんが主役となり、「自分たちがこの地域を必ず良くする」という情熱を持って取り組めるよう支援していくべきです。

今月の
ひと言

堀割川魅力づくり実行委員会が長年要望し、私も県に働きかけていた八幡橋下流の親水護岸整備が平成27年度から開始されます。平成27年度は地質調査や概略設計が行われます。工事は平成29年度から始まる予定です。



磯子 あれ? これ?



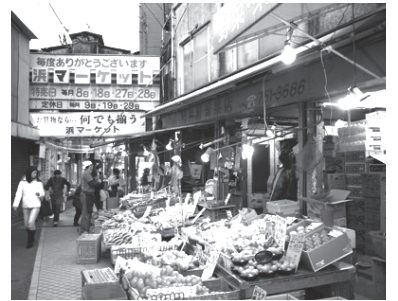
磯子区の商店街 - ② 浜マーケット

磯子警察署近くにある浜マーケット(磯子商店街商業協同組合)は、終戦直後の闇市

から始まって今年で70年近くになります。区内でも1,2を争う安値と豊富な品揃え、そして何よりもお店の人が気さくで親しみやすく、どんな食べ方が美味しいとかその調理法まで教えてくれたりもします。

平成19(2007)年の月末明に不審火による火災で一時は存亡も囁かれました。小島協同組合理事長の話では「今もまだまだ復興の途中です」との事でしたが、被災後は行政からの助成や大勢の方々の励まし、募金活動も行われました。それに応えるかのようにお店の人達も売り出しセールやイベントを開催し、賑わいを取り戻しています。毎月、8のつく日の売り出しには、近隣はもとより、遠方から車やバスを利用して買い物に来る人もいます。浜マーケットには区が行っている「磯子の逸品」に認定され、横浜市内の各商店街のコロッケNo.1を持ち寄って決定した「ガチコロ」で金賞を取った「三角コロッケ」、同じく丼もの選手権「ガチ丼」にも出店した「うな丼」の店などもあります。

他にも新鮮な魚介類や野菜果物、漬物類や雑貨の店など色々なお店があります。皆さんも下町風で気さくな雰囲気マーケットを訪れてみては。



活動報告

第一回定例会厚生常任委員会での私の質疑

●「運動による認知症予防プログラム」について

認知症予防プログラムについては、脳へ刺激を与える事が期待できる運動であると思いますが、現在行っているモデル事業について効果の検証をしていく必要があると考えます。また、介護予防は市町村が実施する事業ですので、県が全県展開するにあたっては、まずは市町村がその効果を納得し、継続していけるよう市町村への理解を得るべきと考えます。

●「市町村国民健康保険の都道府県移管」について

国保制度改革により、県は234万人が加入する市町村国保を持続可能なものとしていかなければならないと思います。改革の方向性がまとまり、これからは、いよいよ都道府県移管に向けた準備を進めていくことになることから、被保険者の負担軽減や将来的な保険

料の上昇抑制に向けて、引き続き残された課題や、制度の詳細について具体的な提案を行い、改革が真に実のあるものになるよう、市町村とともに準備を進めるべきです。

●「県立汐見台病院の民間移譲」について

地域の方々は民間移譲について大変不安を抱えています。今後のスケジュールの中でも適宜、機会を見ながら地域の方々への説明を行ない、移譲先の選定には頂いた地域の意見が十分に反映されるべきです。

その他、「県立がんセンターの重粒子線治療について」「子宮頸がん予防ワクチン等予防接種後の健康被害の救済制度のあり方に関する予防接種研究会について」や「介護職員等による喫煙吸引等行為の研修への支援について」の質疑を致しました。

あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成23年4月 県議会議員初当選
- 厚生常任委員

